



ひらつか障がい者福祉プラン 資料編

自分らしさを大切にしながら 多様な個性が輝く 共生のまち ひらつか

平塚市障がい者福祉計画（第5期）

（令和7年度～令和11年度）

平塚市障がい福祉計画（第7期）

（令和6年度～令和11年度）

平塚市障がい児福祉計画（第3期）

（令和6年度～令和11年度）

令和7年（2025年）2月

平塚市

Hiratsuka City

第1章 障がい者福祉に関するアンケート調査の結果

本計画を策定するに当たり、障がい者福祉に関する御意見等を広く伺うため、障がい者福祉に関するアンケート調査（以下「令和5年度調査」といいます。）を実施しました。令和5年度調査及び前計画の策定に当たってのアンケート調査（以下「平成30年度調査」といいます。）の結果を踏まえ、障がい者福祉の現状を把握しました。

令和5年度調査の期間

令和5年10月30日～同年12月1日

令和5年度調査の対象

18歳以上の障がい者：1,210人、18歳未満の障がい児：110人、18歳以上の一般人：655人

※障害者手帳台帳・住民基本台帳から無作為抽出

令和5年度調査の手法

調査の対象に応じた3つの調査票により実施

令和5年度調査の回答

電子申請と郵送（料金受取人払いの返信用封筒を同封）の選択式

※各回答の集計に当たって、「全て選んでください」とした設問については、当該設問の回答者数に対する割合を示しています。

調査対象	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	回答数（回答率）	回答数（回答率）
障がい者	623件（51.5％）	598件（54.4％）
障がい児	52件（47.3％）	47件（47.0％）
一般人	222件（33.9％）	226件（37.7％）
合計	897件（45.4％）	871件（48.4％）

アンケート調査の対象：18歳以上の障がい者

回答数：623件（電子申請による回答：109件、紙の調査票による回答：514件）

アンケート調査の対象者本人の基本情報を把握するためのアンケート調査です。

問1 回答者

このアンケート調査票が郵送された宛名の方（以下「あなた」といいます。）について、アンケートに回答するのは、どなたですか。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
 1 あなた本人（平成30年度調査：設問なし）	78.2%	—
 2 あなたの家族（平成30年度調査：設問なし）	20.3%	—
 3 あなたの家族以外の介助者等（平成30年度調査：設問なし）	1.4%	—

問2 性別

あなたの性別を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
 1 男	49.7%	50.2%
 2 女	50.3%	49.8%
 3 その他（平成30年度調査：選択肢なし）	0.0%	—

問3 年齢

あなたの年齢を選んでください（令和5年10月1日現在）。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1	18歳～29歳	5.1%	12.4%
■ 2	30歳～39歳	6.2%	
■ 3	40歳～49歳	12.3%	30.5%
■ 4	50歳～59歳（平成30年度調査：40歳～64歳）	16.4%	
■ 5	60歳～69歳（平成30年度調査：65歳以上）	21.1%	57.1%
■ 6	70歳以上	38.9%	

問4 障害者手帳の種類

あなたが持っている手帳の種類を全て選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1	身体障がいの手帳1級～3級	39.2%	48.2%
■ 2	身体障がいの手帳4級～6級	35.3%	21.7%
■ 3	知的障がいの手帳A1・A2	5.3%	6.9%
■ 4	知的障がいの手帳B1・B2	6.4%	5.9%
■ 5	精神障がいの手帳1級	5.5%	2.2%
■ 6	精神障がいの手帳2級・3級	12.2%	15.1%

問4で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

あなたが持っている身体障がいの手帳における障がいの内容を全て選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア	視覚	6.5%	7.7%
■ イ	聴覚・平衡機能	10.8%	9.8%

■ ウ 音声機能・言語機能・そしゃく機能	5. 2%	4. 3%
■ エ 肢体不自由（上肢・体幹等）	59. 5%	48. 8%
■ オ 内部機能（心臓・じん臓等）	17. 2%	28. 9%

実際の暮らしの状況に合った施策を実施するためのアンケート調査です。

問5 お住まい

本人のお住まいを選んでください（令和5年10月1日現在）

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 本人又は家族の持ち家	68. 4%	65. 0%
■ 2 市営住宅・県営住宅、アパート・借家、社宅・社員寮	23. 6%	20. 0%
■ 3 グループホーム	2. 2%	2. 4%
■ 4 施設に入所している	3. 5%	8. 8%
■ 5 入院している	1. 9%	2. 4%
■ 6 その他	0. 3%	1. 5%

➡ その他：お泊まりのできるデイサービスで昼夜過ごしている 等

問5で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

あなたは誰と住んでいますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 一人で住んでいる	18. 4%	15. 0%
■ イ 家族と住んでいる	80. 6%	83. 4%

■ ウ 友人又は知人と住んでいる	0. 9%	0. 4%
■ エ その他	0. 2%	1. 2%

問6 主な介助者

あなたの日常生活における介助を主に行う方を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	8. 0%	12. 9%
■ 2 家族又は親族	49. 3%	53. 7%
■ 3 友人又は知人	2. 0%	1. 4%
■ 4 介助してもらう人はいない	7. 0%	5. 2%
■ 5 介助の必要がない	31. 4%	22. 6%
■ 6 その他	2. 3%	4. 2%

➡ その他：老人介護施設、ケアマネージャー、入院中 等

問7 診察の頻度

医療機関、施設等における医師の診察の頻度を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 週に5日以上（入院を含みます。）	2. 1%	3. 1%
■ 2 週に3～4日くらい	1. 3%	7. 3%
■ 3 週に1～2日くらい	7. 8%	6. 2%
■ 4 1か月に1日くらい	35. 5%	47. 3%
■ 5 2～3か月に1日くらい	26. 0%	21. 3%
■ 6 半年に1日くらい	13. 4%	6. 4%

■ 7 その他	13.9%	8.3%
---------	-------	------

➡ その他：1年に1日くらい、現在は通院していない、診察の必要なし 等

問8 相談先

生活での困りごと、福祉制度の利用等で相談したいことがある場合における主な相談先を1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 相談支援事業所の職員	9.9%	10.9%
■ 2 障がい福祉事業所の支援員・ヘルパー	10.5%	11.3%
■ 3 家族又は親族	37.6%	39.1%
■ 4 友人又は知人	4.7%	3.1%
■ 5 民生委員・児童委員	1.5%	0.7%
■ 6 障がい福祉相談員	3.0%	1.5%
■ 7 障がい福祉課等の市役所職員	11.8%	14.9%
■ 8 相談する人はいない	6.5%	3.8%
■ 9 相談の必要がない	11.0%	7.7%
■ 10 その他	3.3%	7.0%

➡ その他：病院の医師、訪問看護師さん、ユーチューブ 等

問9 情報の取得

障がい者福祉に関する情報が知りたい場合には、どこから取得し、又は取得しようと思いますか。主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
-----	---------	--------------

1 相談支援事業所の職員	11.5%	12.4%
2 障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	10.4%	12.0%
3 家族又は親族	18.4%	22.3%
4 友人又は知人	2.5%	3.3%
5 民生委員・児童委員	1.7%	1.1%
6 障がい福祉課などの市役所職員	27.3%	21.4%
7 障がい者団体の広報紙	3.6%	3.3%
8 インターネット	21.2%	9.6%
9 情報を取得しない	2.0%	7.4%
10 その他	1.3%	4.8%

➡ その他：病院、分からない 等

問10 外出目的

あなたの主な外出目的を1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 企業や公共団体での就労	9.5%	6.9%
2 障がい福祉事業所への通所	5.4%	7.3%
3 通院又はデイケア	17.3%	23.7%
4 市役所への手続	3.0%	3.6%
5 買い物	31.5%	27.7%
6 散歩・運動	13.5%	11.4%
7 趣味の活動（旅行、ドライブ等を含みます。）	9.0%	7.2%
8 友人や知人の家への訪問	1.7%	1.6%
9 障がい者団体の会合・行事（本人活動を含みます。）	1.0%	1.8%

■ 10 ほとんど外出しない（できない）	6. 1%	6. 2%
■ 11 その他	2. 1%	2. 6%

➡ その他：通学、銀行、郵便局 等

問10で「1」を選んだ方におたずねします。

あなたの就労形態について、主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 正社員	31. 4%	33. 7%
■ イ 契約社員又は派遣社員	16. 4%	15. 7%
■ ウ パート社員又はアルバイト社員	39. 3%	31. 3%
■ エ その他	12. 9%	19. 3%

➡ その他：会社役員、準社員（障がい者雇用）、研修員 等

問11 外出日数

あなたが外出（就労・障がい福祉事業所への通所を含みます。）をする日数は、どのくらいですか。主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 週に5日以上	36. 0%	33. 9%
■ 2 週に3～4日くらい	26. 7%	26. 7%
■ 3 週に1～2日くらい	24. 0%	22. 5%
■ 4 1か月に1日くらい	5. 2%	9. 2%
■ 5 2～3か月に1日くらい	2. 9%	3. 5%

■ 6 半年に1日くらい	1. 0%	1. 7%
■ 7 その他	4. 1%	2. 6%

➡ その他：毎日、外出はしない、外出できない 等

問12 外出時の介助者

あなたが外出（就労・障がい福祉事業所への通所を含みます。）をするときに、主に介助してくれる方を1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障がい福祉事業所の支援員・ヘルパー	6. 7%	10. 9%
■ 2 家族又は親族	36. 8%	37. 8%
■ 3 友人又は知人	1. 8%	1. 3%
■ 4 一人で外出する	52. 6%	46. 0%
■ 5 その他	2. 1%	3. 9%

➡ その他：しない、できない、入院中 等

問13 外出時の移動手段

外出（就労・障がい福祉事業所への通所を含みます。）をする場合における主な移動手段を1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 徒歩	18. 4%	18. 4%
■ 2 車いす	4. 1%	3. 8%
■ 3 自転車	10. 3%	9. 5%
■ 4 バイク	1. 1%	0. 4%
■ 5 あなたが運転する自動車	15. 4%	14. 1%
■ 6 家族又は親族が運転する自動車	17. 9%	18. 9%

■ 7 障がい福祉事業所の送迎車	4. 3%	8. 6%
■ 8 バス	15. 3%	13. 6%
■ 9 タクシー	4. 9%	7. 6%
■ 10 電車	7. 3%	3. 5%
■ 11 その他	1. 0%	1. 7%

➡ その他：シニアカー、外出しない、押し車 等

問14 外出時の困りごと

あなたが外出したときに困ったことはありますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 ある	37. 9%	35. 6%
■ 2 ない	62. 1%	64. 4%

問14で「1」を選んだ方におたずねします。

外出時の困りごとを自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 車いす、オストメイト、視覚障がい等に対応したトイレが少ない
- 清潔なトイレがない、多目的トイレが見つからない
- 歩道に段差や穴がある
- 路面と同色の点字ブロック
- 手すりのない階段

- 無造作に歩く人混み
- 障がい者であることに気付かれない
- 多目的トイレ等を使用した際にきつい言い方をされてしまう
- 聞き取れない、聞こえない 等

問15 地域への関わり【基本目標 発揮する 成果指標関係項目】

あなたは、地域の活動・行事に参加していますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 よく参加している	2. 4%	4. 3%
■ 2 時々参加している	14. 1%	17. 6%
■ 3 参加していない	73. 2%	69. 3%
■ 4 参加したいが参加していない	10. 3%	8. 8%

問16 主な収入源

あなたの主な収入を1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 就労先からの給与	17. 9%	11. 3%
■ 2 障がい福祉事業所からの工賃	3. 4%	6. 5%
■ 3 障害年金又は老齢年金	45. 6%	51. 8%
■ 4 国、県又は市からの福祉手当	4. 3%	3. 0%
■ 5 市からの生活保護費	5. 7%	5. 3%
■ 6 家族又は親族から受け取るお金	10. 1%	9. 3%

■ 7 収入はない	6. 6%	4. 4%
■ 8 その他	6. 6%	8. 6%

➡ その他：個人事業主、不動産収入、預貯金及び有価証券の配当金 等

問17 災害時・緊急時の援助者

災害時や緊急時に、あなたを主に援助してくれる方を1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障がい福祉事業所の支援員・ヘルパー	8. 6%	14. 7%
■ 2 家族又は親族	59. 1%	57. 8%
■ 3 友人又は知人	4. 0%	3. 3%
■ 4 近所や自治会の人	4. 2%	6. 0%
■ 5 市役所の職員	1. 0%	1. 0%
■ 6 消防署又は警察署の署員	1. 9%	0. 9%
■ 7 援助してくれる人はいない	9. 3%	8. 1%
■ 8 援助の必要がない	10. 1%	5. 1%
■ 9 その他	1. 8%	3. 0%

➡ その他：分からない、入所している、入院中 等

問18 災害時の不安ごと

災害時において、あなたが不安に思うことはありますか。主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 情報の入手・伝達	9. 7%	7. 8%
■ 2 家族内での安否確認	15. 0%	15. 1%

■ 3 避難所への移動	12.1%	14.8%
■ 4 避難所での生活	21.7%	20.2%
■ 5 在宅での避難生活	7.0%	6.6%
■ 6 医療体制・薬の確保	19.3%	20.0%
■ 7 自分での状況把握・判断が困難	6.6%	9.0%
■ 8 特になし	7.8%	5.1%
■ 9 その他	0.8%	1.4%

➡ その他：スマホ、1～7全部、考えたことがない 等

問19 避難所の不安ごと

避難所に避難した場合において、あなたが不安に思うことはありますか。主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 トイレ、食事等の生活面	36.3%	35.6%
■ 2 プライバシーの保護	14.5%	10.2%
■ 3 コミュニケーションへの配慮	5.4%	5.0%
■ 4 介助や支援してくれる人の確保	6.5%	9.1%
■ 5 医療体制・薬の確保	22.5%	27.3%
■ 6 他の避難者や避難所運営側の理解	6.6%	6.6%
■ 7 特になし	6.6%	3.7%
■ 8 その他	1.5%	2.4%

➡ その他：避難しない、酸素吸引のための酸素ボンベのことが不安、ペースメーカーの遠隔モニタリング使用のため不安 等

問20 災害対策

災害対策として必要だと思うものを3つまで選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	1 障がい者も参加する防災訓練を実施すること	3. 9%	3. 4%
	2 地域で障がい者も含めた避難計画等を立案すること	5. 6%	5. 0%
	3 障がい者に配慮した避難場所を確保すること	21. 9%	20. 4%
	4 避難場所までの移動手段を確保すること	14. 2%	13. 7%
	5 避難所で避難生活を送れない在宅避難者への支援を行うこと	12. 7%	10. 4%
	6 医療行為が欠かせない人のための医療体制・薬を確保すること	20. 9%	22. 2%
	7 住宅の耐震工事等に対する補助制度を実施すること	3. 7%	2. 8%
	8 障がい者の連絡先、避難方法、介助方法等を近所や自治会の人等が把握すること	6. 9%	6. 1%
	9 防災意識を高めるための広報啓発活動を行うこと	1. 0%	2. 0%
	10 情報収集・伝達・コミュニケーションに支援が必要な人への支援を行うこと	5. 0%	7. 1%
	11 分からない	3. 7%	5. 9%
	12 その他	0. 5%	0. 8%

➡ その他：ない、避難しなくても暮らせること 等

実際の社会における障がい者への理解度に合った施策を実施するためのアンケート調査です。



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている人が洋服やかばんなどに付け、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることができるものです。

ヘルプマークの実物は、赤地に白色のマークが表示されているタテ約8. 5cm×ヨコ約5. 3cmのものです。

問21 ヘルプマークの認知度

ヘルプマークを知っていますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 知っていて、利用している（平成30年度調査：知っていて、見たこともある）	11.1%	17.1%
■ 2 知っているが、利用していない（平成30年度調査：知っているが、見たことはない）	43.0%	9.8%
■ 3 知らないが、見たことはある	9.4%	10.3%
■ 4 知らないし、見たこともない	36.5%	62.8%

問21で「1」を選んだ方におたずねします。

あなたは、ヘルプマークを付けていて、手助けを受けたことがありますか。次の中から当てはまるものをどちらか選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 手助けを受けたことがある	19.2%	7.7%
■ イ 手助けを受けたことがない	80.8%	92.3%

問22 社会における障がい者への理解度【基本目標 認め合う 成果指標関係項目】

社会における障がい者への理解について、おおむね5年前と比べてどのように感じますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 十分深まっていると感じる	2.5%	5.9%
■ 2 少しは深まっていると感じる	29.7%	32.1%
■ 3 あまり深まっていないと感じる	25.8%	21.9%
■ 4 ほとんど深まっていないと感じる	16.1%	13.6%
■ 5 どちらとも言えない、分からない	25.9%	26.5%

問23 障がい者への理解を深める啓発【基本目標 認め合う 成果指標関係項目】

社会における障がい者に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのように感じますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 十分行われていると感じる	3.6%	6.3%
2 少しは行われていると感じる	33.5%	34.8%
3 あまり行われていないと感じる	24.6%	18.7%
4 ほとんど行われていないと感じる	13.7%	13.6%
5 どちらとも言えない、分からない	24.6%	26.6%

問24 差別・偏見の経験

誰かの行動・言動によって、差別・偏見を感じたり、嫌な思いをしたりしたことがありますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 よくある（平成30年度調査：たびたびある）	9.2%	7.0%
2 たまにある	28.5%	28.6%
3 ほとんどない	47.4%	43.3%
4 分からない	14.9%	17.9%

問24で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

差別・偏見を感じ、嫌な思いをした内容について、どういふことでそう感じたのか、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- **じろじろ見られる**

- 見る目が違う
- いやな目で見られることがある
- 悪口を言われる
- 露骨な気遣い
- 聴覚障がいばかりにくいので、はっきり、ゆっくりと話してくれると助かるが、聞き取れないと大声で言われてしまった 等

実際のニーズに合った施策を実施するためのアンケート調査です。

問25 将来の暮らし

あなたは、将来、どのように暮らしたいと思いますか。主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	1 一人で暮らしたい	19.7%	12.9%
	2 家族と一緒に暮らしたい	58.0%	62.2%
	3 友人又は知人と一緒に暮らしたい	2.9%	1.4%
	4 グループホームで暮らしたい	4.2%	5.2%
	5 施設に入所して暮らしたい	11.1%	13.5%
	6 その他	4.0%	4.7%

➡ その他：分からない、状況による、入院中 等

問26 将来の介助者

あなたは、将来、日常生活における介助をどなたから受けたいと思いますか。主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	33.4%	32.2%
■ 2 家族又は親族	47.5%	53.8%
■ 3 友人又は知人	2.0%	1.3%
■ 4 介助の必要がない	11.8%	7.9%
■ 5 その他	5.4%	4.8%

➡ その他：分らない、誰にも迷惑を掛けたくない、入院中 等

問27 将来の働き方

あなたは、将来、どのような働き方を希望しますか。主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 企業や公共団体で就労	22.8%	16.1%
■ 2 就労継続支援、地域活動支援センターなどのサービスを利用	9.6%	10.4%
■ 3 就労は希望しない	24.8%	25.9%
■ 4 就労は難しい	35.6%	41.3%
■ 5 その他	7.2%	6.3%

➡ その他：分らない、個人事業主、個人投資家 等

問28 将来の外出時の介助者

あなたは、将来、外出時における介助をどなたから受けたいと思いますか。主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	17.3%	16.1%
■ 2 家族又は親族	42.4%	41.7%

■ 3 友人又は知人	2. 4%	1. 1%
■ 4 施設での訓練、ヘルパーとの訓練などにより自力で外出できるようになりたい	4. 8%	7. 2%
■ 5 一人で外出できる	20. 5%	22. 6%
■ 6 特に希望はない	10. 0%	8. 2%
■ 7 その他	2. 6%	3. 1%

➡ その他：分らない、予測できない、特に希望はない 等

問29 将来への希望・不安ごと

あなたは、将来のことで希望することや不安に思っていることはありますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 ある	58. 6%	44. 5%
■ 2 ない	41. 4%	55. 5%

問29で「1」を選んだ方におたずねします。

将来への希望・不安ごとの内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 家族がいなくなった後にどうするか不安、将来誰が面倒をみるのか
- 障がい等による症状の悪化、体が動かなくなってしまうのではないか
- 働けなくなったときの住宅確保や生活に対する不安
- 年金が少ない 等

問30 今後の障害福祉サービスの提供

今後の障害福祉サービスの提供について、どう進めるべきと思いますか。考えに近いものを1つだけ選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	1 障害福祉サービスの提供を今よりも拡大すべき	38.3%	42.6%
	2 障害福祉サービスの提供を今よりも縮小すべき	0.3%	0.5%
	3 障害福祉サービスの提供を今と同水準で維持すべき	28.5%	39.1%
	4 分からない（平成30年度調査：未回答）	32.9%	17.7%

問30で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

今よりも拡大すべき、又は縮小すべきと思う障害福祉サービスを記入してください。

（具体的に思いつかなければ未記入でも結構です。）

- 就労系
- 就労移行支援
- 就労定着支援
- 同行援護の対象者拡大
- 移動支援
- 身体障害者手帳の等級が4級以下等でも受けられる障害福祉サービスの拡大と充実 等

問31 障害福祉サービス等の提供に掛かる負担

障害福祉サービス等の提供に掛かる負担について、どのようにしたらよいと思いますか。考えに近いものを選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
	1 市民の税負担を今よりも増やす	3.9%	5.4%
	2 障がい者の費用負担を減らし、市民の税負担を今よりも増やす	13.5%	15.6%
	3 障がい者の費用負担を今よりも増やす	5.7%	5.1%
	4 市民の税負担を減らし、障がい者の費用負担を今よりも増やす	5.0%	7.1%
	5 市民の税負担や障がい者の費用負担（費用負担がない場合を含みます。）を今と同水準で維持する	57.9%	62.4%
	6 その他	14.0%	4.4%

➡ その他：分らない、国が支援すべき、高所得者の費用負担を増やす 等

問32 障がい者福祉に対する意見・要望

国・県・平塚市の障がい者に対する施策について、具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 違う自治体で障がいのある親族がありますが、話を聞いていると、平塚市、神奈川県の方が手厚い、平塚市は良い方だと思う
- 市役所の障がい福祉課以外の窓口の職員の方々にも、精神障がい者への配慮の仕方を周知してほしい
- 障がいに対する理解が少ない
- 障がい者側への啓蒙が足りないとも感じる。健常者は、こういう不屈き者まで受け入れなければならないと感じていて、だから理解が進まない部分もあると思う
- 障がい者雇用促進
- 困りごとの内容に応じた相談先の明確化、利用できるサービスを探し知ることが難しい
- 障害年金が少ない 等

問33 今後の社会に必要なこと

障がいのある人もない人も、お互い理解し合いながらともにいきいきと生活していける社会を作っていくためには、どのようにしたらよいと思いますか。考えに近いものを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 障がい者への理解を深める取組	17.2%	16.5%
2 あいさつや声掛けなど日ごろからのコミュニケーション	11.1%	12.9%
3 幼少期から障がい者と自然に関わることでできる環境	11.2%	12.4%
4 障がい者が共に参加できる活動やイベントなどの実施	5.3%	5.9%
5 地域の誰もが利用できる地域の生活相談や相互支援の場の設置	9.9%	9.8%
6 障がい者を支える地域での支援	7.9%	6.0%
7 障がい者を支える福祉サービスの充実や支援者の育成	12.9%	14.9%
8 障がい者が働くことでできる支援	15.1%	14.4%
9 特別に必要とすることはない	2.1%	2.1%
10 分からない	6.0%	2.1%
11 その他（自由記述欄に記入してください。）	1.4%	0.7%

問34（自由記述欄）

どのような施策や事業を実施したらよいか具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 相談する所がないので、顔を合わせなくても利用できる所があればと思います。家族の立場で精神的に孤独で…
- 家族に負担がかかる状況を把握して相談にのってあげる優しい行政を希望します。
- いつでも立ち寄れるような場所を作ってほしい。

- 街のバリアフリーの徹底
- 車椅子に対応できる場所がなさすぎる。せめて、道の整備くらいはしてほしい。車椅子に乗る方も、押す方も辛いのだから。
- 弱者への配慮を弱者の特権と勘違いして強要するような人もいて迷惑。健常者だけでなく、一部の障がい者も自身への正しい理解をすべき
- 一般企業で働いていますが、理解ってとても難しいと思います。障がい者も含めみんな誰しも自分の物差しで世の中を見るし、なってみないと本当のところはわかりません。どのような施策が必要かも個人個人で異なります。答えが出ないというのが答えですが、話を聞いて理解を深めていくことからやっていくしかないと思います。
- 子どもたちが障がい者を見かける機会が増えると良いと思います。障がい者を一箇所に集めるのではなく、学校のクラスに、近所に、スーパーに、どこでも見かけるようになると良いと思います。
- 障がいがあろうとなかろうと、自分が必要な分のお金を自分で何とか稼ぐのが前提です。障がい者の仕事について、支援は今後必要です。大変だとは思いますが、よろしくお願いいたします。
- 休みやすく、頑張れば賃金を上げてもらえる職場がたくさんできるような働きかけをお願いしたいです。受け入れる職場も増やし一人一人に合った職場を見つけられるよう支援をしてほしいです。
- 障がい者雇用率を上げる
- 障がい者が働いて工賃もらって1人で生活できる環境作り
- 障がい者でもいきいき働ける場所を作って欲しい
- 障がい者も支援されるだけでなく、社会に貢献できる事があればしたいし、役に立っていると自信にもつながるので、そういった事業があると嬉しい。(それが収入に繋がればなお良い)
- 障がい者も気軽に参加できるイベント 等

アンケート調査の対象：18歳未満の障がい児

回答数：52件（電子申請による回答：30件、紙の調査票による回答：22件）

アンケート調査の対象者本人の基本情報を把握するための調査です。

問1 回答者

このアンケート調査票が郵送された宛名の方（以下「お子さん」といいます。）について、アンケートに回答するのは、どなたですか。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
☐ 1 お子さんの家族（平成30年度調査：設問なし）	100.0%	—
☐ 2 お子さんの家族以外の介助者等（平成30年度調査：設問なし）	0.0%	—

問2 性別

お子さんの性別を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
☐ 1 男	65.4%	47.8%
☐ 2 女	34.6%	52.2%
☐ 3 その他（平成30年度調査：選択肢なし）	0.0%	—

問3 年齢

お子さんの年齢を選んでください（令和5年10月1日現在）。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
-----	---------	--------------

■ 1 (未就学の) 6歳以下	15.4%	10.9%
■ 2 (就学後の) 6歳～11歳	53.8%	39.1%
■ 3 12歳～17歳	30.8%	50.0%

問4 障害者手帳の種類

お子さんが持っている手帳の種類を全て選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考 (平成30年度調査)
■ 1 身体障がいの手帳1級～3級	7.7%	23.4%
■ 2 身体障がいの手帳4級～6級	9.6%	6.4%
■ 3 知的障がいの手帳A1・A2	19.2%	34.0%
■ 4 知的障がいの手帳B1・B2	57.7%	57.4%
■ 5 精神障がいの手帳1級	0.0%	0.0%
■ 6 精神障がいの手帳2級・3級	9.6%	2.1%

問4で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

お子さんが持っている身体障がいの手帳における障がいの内容を全て選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考 (平成30年度調査)
■ ア 視覚	0.0%	7.1%
■ イ 聴覚又は平衡機能	33.3%	14.3%
■ ウ 音声機能・言語機能・そしゃく機能	0.0%	7.1%
■ エ 肢体不自由 (上肢・体幹等)	55.6%	71.4%
■ オ 内部機能 (心臓・じん臓等)	11.1%	0.0%

より利用しやすい相談窓口を設置するためのアンケート調査です。

問5 初めて利用した相談窓口

初めて利用した相談窓口を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 幼稚園、保育所、認定こども園	1.9%	6.5%
2 学校（小学校、中学校、特別支援学校等）	7.7%	10.9%
3 障害児通所支援事業所（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等）	1.9%	6.5%
4 計画相談支援事業所	0.0%	2.2%
5 医療機関	7.7%	17.4%
6 神奈川県立総合療育相談センター	1.9%	4.3%
7 平塚保健福祉事務所	1.9%	4.3%
8 平塚児童相談所	0.0%	6.5%
9 子ども教育相談センター	7.7%	2.2%
10 平塚市保健センター（ひらつかネウボラルーム はぐくみを含みます。）	15.4%	2.2%
11 子育て支援センター、ファミリーサポートセンター	0.0%	0.0%
12 こども発達支援室くれよん	48.1%	30.4%
13 市役所相談窓口	3.8%	0.0%
14 利用したことがない	0.0%	2.2%
15 その他	1.9%	4.3%

➡ その他：他市の保健センター

問5で相談窓口を利用したことがある方の選択肢を選んだ方におたずねします。

初めて利用した相談窓口の場所と窓口での説明について当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 場所も、窓口での説明も分かりやすかった。（平成30年度調査：分かりやすい）	78.8%	62.8%
■ イ 場所は分かりにくかったが、窓口での説明は分かりやすかった。	3.8%	17.0%
■ ウ 場所は分かりやすかったが、窓口での説明は分かりにくかった。	5.8%	
■ エ 場所も、窓口での説明も分かりにくかった。（平成30年度調査：分かりにくい）	3.8%	
■ オ その他（平成30年度調査：未回答）	7.7%	20.2%

➡ その他：全く当てにならなかった、分からない

問6 相談窓口に対する意見・要望

より利用しやすい窓口を設置するために必要なことについて、具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定できるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 相談窓口（くれよん）を知ったのが、1歳半検診のときでした。もう少し早く知ることができたら良かったと思います。（妊娠中や出産後）
- 市役所内など、場所を統合してくれるとありがたい。
- 市役所とくれよんの距離がもう少し近いと良い。
- 私が初めて相談した時はまだ発達障害がどのようなものか分からず、ただただ不安で何をどこから説明して良いのか分からなかったのも、最初に問診票があると話しやすかったと思います。 等

より良い子育て支援を実施するためのアンケート調査です。

問7 子育て支援の場の利用状況

子育て支援の場（つどいの広場、子育て支援センター、こども発達支援室くれよんの子育て交流広場等）の利用状況を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 利用している	13.5%	19.6%
■ 2 以前利用していたが、今は利用していない	53.8%	58.7%
■ 3 利用したことがない	32.7%	21.7%

問7で「1」を選んだ方におたずねします。

子育て支援の場に満足していますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 満足している	85.7%	68.8%
■ イ 満足していない	14.3%	31.2%

問7で「2」又は「3」を選んだ方におたずねします。

子育て支援の場を利用していない主な理由を選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 利用する必要がないから	51.1%	50.0%
■ イ 存在を知らなかったから	11.1%	6.3%
■ ウ 利用した際に嫌なことがあったから	4.4%	6.3%
■ エ その他	33.3%	37.5%

➡ その他：小学生になり利用できなくなった、行きたくない、平日の8～17の壁が高すぎて行けなかった 等

問8 子育て支援の場に対する意見・要望

より良い子育て支援の場を設置するために必要なことについて、具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定できるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 各保育園や幼稚園等に発達について相談できるスタッフや保育士などを配置したら良いのではないかと
- 年齢制限で使えなくなり、他の子と遊んだり、行くところがなくなり困りました。
- インクルーシブ公園が出来たので、インクルーシブ屋内施設も作って欲しいです。
- 他人の目を気にせず、遊ばせてあげられる公園が欲しかった。
- 障がい、過敏の度合で、居てもみんなの迷惑になることがあり、居辛さを感じたことがある。
- 土日しか休みがない家庭のために土日もやってほしい。
- パートレーニングの定期的な実施（土・日） 等

問9 児童福祉・障がい福祉のサービスの認知度

知っている児童福祉・障がい福祉のサービスを提供している事業を全て選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
 1	児童発達支援	78.8%	53.2%
 2	放課後等デイサービス	96.2%	76.6%
 3	日中一時支援	36.5%	34.0%
 4	短期入所	32.7%	44.7%
 5	居宅介護	9.6%	19.1%
 6	移動支援	17.3%	31.9%

■ 7 知っているものはない	1. 9%	8. 5%
■ 8 その他	0. 0%	2. 1%

問10 児童福祉・障がい福祉のサービスの利用希望

次に掲げる事業の利用について当てはまるものを選んでください。

- 児童発達支援 未就学の児童に対し、日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行うもの
- 放課後等デイサービス 学校終了後や休業中に、生活能力向上のために必要な訓練、社会との交流、余暇の提供等を行うもの
- 日中一時支援 一時的に見守り等の支援が必要な障がい者の日中における活動の場の確保と、障がい者を日常的に介護している家族が一時的な休息を図ることを目的としたもの
- 短期入所 自宅で介護する人が病気の場合等に、短期間、夜間も含め施設で入浴、排せつ、食事の介護等を行うもの
- 居宅介護 居宅において入浴、排せつ及び食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事並びに生活等に関する相談及び助言その他の生活全般にわたる援助を行うもの
- 移動支援 社会生活上必要不可欠な外出及び余暇活動等の社会参加のための外出の際の移動を支援するもの

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 現在利用している	73. 1%	60. 9%
■ 2 今後利用してみたい	7. 7%	13. 0%
■ 3 以前利用していたが、今は必要としていない	3. 8%	2. 2%
■ 4 今まで利用しておらず、今後も必要としていない	11. 5%	17. 4%
■ 5 分からない	3. 8%	6. 5%
■ 6 その他	0. 0%	0. 0%

実際の緊急時の状況に合った施策を実施するためのアンケート調査です。

問11 緊急時の対応経験

これまで、家族の用事（冠婚葬祭・家族の病気等の理由）により、お子さんを泊まりがけで家族以外の方に見てもらいたいと思うことがありましたか。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 あった	36.5%	44.4%
■ 2 なかった	63.5%	55.6%

問11で「1」を選んだ方におたずねします。

お子さんを泊まりがけで家族以外の方に見てもらいたいと思うことがあった時の対処法を全て選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ ア 短期入所を利用した	5.3%	8.5%
■ イ 医療機関を利用した	0.0%	0.0%
■ ウ ベビーシッター等を利用した	0.0%	2.1%
■ エ 親族・知人に見てもらった	36.8%	23.4%
■ オ 結局預け先が見つからず、子どもを用事に同行させた	31.6%	12.8%
■ カ その他（平成30年度調査：その他＋未回答）	36.8%	63.8%

➡ その他：具体的な回答なし

実際の暮らしの状況に合った施策を実施するためのアンケート調査です。

問12 日常生活における困りごと・不安ごと

お子さんの日常生活で困っていることや不安なことを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 健康や医療のこと	13.6%	18.8%
2 家族のこと	5.9%	10.4%
3 介助者のこと	0.0%	4.2%
4 進学や学校のこと	31.4%	21.9%
5 就職のこと	16.9%	15.6%
6 施設への入所のこと	5.1%	3.1%
7 意思疎通が思うようにできないこと	12.7%	11.5%
8 いじめや嫌がらせを受けること	6.8%	6.3%
9 特に困ったり、不安に思ったりすることはない	3.4%	2.1%
10 その他	4.2%	6.3%

➡ その他：将来が不安、感覚過敏がひどい、祖父母両親が死んだら一人きりになってしまう 等

問13 進路・生活設計の希望

お子さんの今後の進路・生活設計の希望を3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 通園施設や幼稚園・保育所等に通わせたい	1.8%	1.2%
2 特別支援学校に通わせたい	10.5%	8.6%
3 地域の学校に通わせたい	15.8%	8.6%
4 大学・専門学校に進学させたい	9.6%	4.9%
5 就労させたい	16.7%	19.8%

■ 6	家にいてできる仕事をさせたい（家事の補助、内職、自営業の補助等）	0.9%	3.7%
■ 7	自立のための訓練施設等に通わせたい	17.5%	9.9%
■ 8	福祉サービスを利用しながら地域で生活させたい	14.0%	21.0%
■ 9	施設入所や入院をして、介護を受けさせたい	2.6%	4.9%
■ 10	分からない、今はまだ決められない	7.9%	14.8%
■ 11	その他	2.6%	3.7%

➡ その他：ちょうどいいところがない、本人に合った場を成長とともに選択していきます、施設入所が良い 等

問14 災害時・緊急時における援助者

災害時や緊急時において、主に援助してくれる人等を1つ又は2つ選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	8.1%	1.8%
■ 2	家族又は親族	69.4%	61.4%
■ 3	友人又は知人	6.5%	14.0%
■ 4	近所や自治会の人	0.0%	5.3%
■ 5	市役所の職員	0.0%	0.0%
■ 6	消防署又は警察署の署員	0.0%	0.0%
■ 7	援助してくれる人はいない	6.5%	10.5%
■ 8	援助の必要がない	8.1%	3.5%
■ 9	その他	1.6%	3.5%

➡ その他：児童相談所

問15 災害時の不安ごと

災害時において、主に不安に思うことを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 情報の入手や伝達	11.5%	7.0%
2 家族内での安否確認	14.9%	11.3%
3 避難所への移動	6.9%	12.7%
4 避難所での生活	20.7%	25.4%
5 在宅での避難生活	5.7%	4.2%
6 医療体制や薬の確保	10.3%	12.7%
7 子ども自身での状況把握や判断が困難	26.4%	19.7%
8 特になし	3.4%	5.6%
9 その他	0.0%	1.4%

問16 避難所における不安ごと

お子さんが避難所へ避難した場合において、主に不安に思うことを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 トイレや食事等の生活面	33.0%	28.6%
2 プライバシーの保護	5.7%	9.1%
3 コミュニケーションへの配慮	19.3%	19.5%
4 介助や支援してくれる人の確保	5.7%	5.2%
5 医療体制や薬の確保	11.4%	13.0%
6 他の避難者や避難所運営側の理解	17.0%	16.9%
7 特になし	5.7%	6.5%
8 その他	2.3%	1.3%

➡ その他：いつものスペースで生活できないことへの不安やストレス、本人の精神面、パニックが心配 等

問17 災害対策として必要なこと

災害対策として主に必要だと思うことを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 障がい者も参加する防災訓練を実施すること	4.3%	2.7%
2 地域で障がい者も含めた避難計画等を立案すること	14.8%	4.5%
3 障がい者に配慮した避難場所を確保すること	25.2%	27.9%
4 避難場所までの移動手段を確保すること	3.5%	6.3%
5 避難所で避難生活を送れない在宅避難者への支援を行うこと	13.9%	17.1%
6 医療行為が欠かせない人のための医療体制や薬を確保すること	12.2%	12.6%
7 住宅の耐震工事などに対する補助制度を実施すること	1.7%	1.8%
8 障がい者の連絡先や避難方法又は介助方法などを近所や自治会の人等が把握すること	6.1%	10.8%
9 防災意識を高めるための広報啓発活動を行うこと	0.0%	0.0%
10 情報収集や伝達又はコミュニケーションに支援が必要な人への支援を行うこと	13.0%	11.7%
11 分からない	5.2%	4.5%
12 その他	0.0%	0.0%

問18 安心した地域生活に必要なこと

地域で安心して生活するために必要だと思うことを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 相談支援体制の充実	9.9%	12.6%
2 障害児サービスの充実（児童発達支援事業、放課後等デイサービス等）	24.1%	16.0%
3 福祉サービスの充実（居宅介護、短期入所等）	12.1%	6.7%

4 保育所・幼稚園・学校等の受け入れ体制の充実	17.0%	10.1%
5 グループホームの設置促進	6.4%	11.8%
6 交通機関や建物などのバリアフリー・ユニバーサルデザインの促進	4.3%	3.4%
7 医療やリハビリの充実	5.0%	5.9%
8 災害時の支援体制の充実	3.5%	8.4%
9 家族以外の支援者の充実（ホームヘルパー等）	11.3%	10.1%
10 地域住民の理解と協力	6.4%	13.4%
11 その他	0.0%	1.7%

問19 地域医療に必要なこと

地域での医療に必要なだと思うものを1つ又は2つ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 障がい児を受け入れてくれる医療機関の充実	32.5%	26.5%
2 専門的な治療をしてくれる医療機関の充実	27.5%	26.5%
3 緊急対応してくれる医療機関の充実	22.5%	22.1%
4 往診してくれる医療機関の充実	8.8%	5.9%
5 通院可能な範囲への医療機関の設置	7.5%	14.7%
6 特にない	1.3%	4.4%
7 その他	0.0%	0.0%

より良い療育・教育等を実施するためのアンケート調査です。

問20 平日の日中

平日の日中は、主にどこで過ごしていますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 保育所・幼稚園・認定こども園	9.6%	4.3%
2 特別支援学校（幼稚部）	0.0%	0.0%
3 療育施設（児童発達支援事業等）	1.9%	6.5%
4 小学校・中学校	53.8%	39.1%
5 特別支援学校（小学部・中学部）	23.1%	19.6%
6 高等学校	1.9%	2.2%
7 特別支援学校（高等部）	1.9%	17.4%
8 施設入所・入院中	0.0%	0.0%
9 どこにも通っていない	5.8%	6.5%
10 その他	1.9%	4.3%

➡ その他：現在体調不良のため、在宅

問20で通園・通学をしている旨の選択肢を選んだ方におたずねします。

通園・通学先で困っていることを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
ア 通園・通学する際の準備・身支度に時間がかかる	17.8%	14.1%
イ 通園・通学先までの移動	11.0%	16.9%
ウ トイレや階段等の施設が使いにくい	4.1%	4.2%
エ 介助・支援体制が十分でない	4.1%	4.2%
オ 受入れ側の理解や配慮が不足している	9.6%	8.5%
カ 周りの人たちの理解や配慮が不足している	2.7%	8.5%
キ 友達ができない又は合わない	9.6%	8.5%

■ ク 学習や活動のカリキュラムが合わない	11.0%	4.2%
■ ケ 特に困っていることはない	26.0%	23.9%
■ コ その他	4.1%	2.8%

➡ その他：いろいろと考えすぎてストレスがある、年度の途中で支援学校へ転校できない 等

問21 入園・入学・進学に当たっての困りごと【基本目標 育む 成果指標関係項目】

今後、入園・入学・進学を迎えるに当たっての困りごとはありますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 ある	63.5%	46.5%
■ 2 ない	30.8%	41.9%
■ 3 入園・入学・進学の予定はない	5.7%	11.6%

問21で「1」を選んだ方におたずねします。

今後、入園・入学・進学を迎えるに当たっての困りごとの内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 通学先までの移動
- 自力で通学しないといけませんが、一人での通学はとても心配なので、送迎が必要になると、保護者がフルタイムの仕事ができなくなること。
- 中学校の支援級だと難しすぎですが、特別支援学校を選ぶには軽度すぎる。ちょうどいいところがない。
- 支援級、支援学校どちらに通わせるか 等

実際の社会における障がい者への理解度に合った施策を実施するためのアンケート調査です。



ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている人が洋服やかばんなどに付け、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることができるものです。

ヘルプマークの実物は、赤地に白色のマークが表示されているタテ約8.5cm×ヨコ約5.3cmのものです。

問22 ヘルプマークの認知度

ヘルプマークを知っていますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
☐ 1 知っていて、利用している（平成30年度調査：知っていて、見たこともある）	17.3%	54.3%
☐ 2 知っているが、利用していない（平成30年度調査：知っているが、見たことはない）	67.3%	8.7%
☐ 3 知らないが、見たことはある	5.8%	4.3%
☐ 4 知らないし、見たこともない	9.6%	32.6%

問22で「1」を選んだ方におたずねします。

ヘルプマークを付けていて、手助けを受けたことがありますか。当てはまるものを選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
☐ ア 手助けを受けたことがある	11.1%	12.5%
☐ イ 手助けを受けたことがない	88.9%	87.5%

問23 社会における障がい者への理解度【基本目標 認め合う 成果指標関係項目】

社会における障がい者への理解について、おおむね5年前と比べてどのように感じますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 十分深まっていると感じる	1. 9%	0. 0%
2 少しは深まっていると感じる	42. 3%	25. 5%
3 あまり深まっていないと感じる	36. 5%	31. 9%
4 ほとんど深まっていないと感じる	11. 5%	23. 4%
5 どちらとも言えない、分からない	7. 8%	19. 1%

問24 障がい者への理解を深める啓発【基本目標 認め合う 成果指標関係項目】

社会における障がい者に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのように感じますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 十分行われていると感じる	1. 9%	0. 0%
2 少しは行われていると感じる	46. 1%	44. 7%
3 あまり行われていないと感じる	30. 8%	21. 3%
4 ほとんど行われていないと感じる	15. 3%	14. 9%
5 どちらとも言えない、分からない	5. 9%	19. 1%

問25 差別・偏見の経験

誰かの行動・言動によって、差別・偏見を感じたり、嫌な思いをしたりしたことがありますか。当てはまるものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 よくある	23. 1%	17. 4%
2 たまにある	46. 2%	47. 8%
3 ほとんどない	21. 2%	26. 1%

■ 4 分からない	9.6%	8.7%
-----------	------	------

問25で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

差別・偏見を感じたり、嫌な思いをした内容について、どういふことでそう感じたのか、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 急に声を出したりしたときに、周囲から視線を感じる。
- 障がいの特性を理解されず、「しつけがなっていない」などと言われた事がある。
- 親切の押し売 等

実際のニーズに合った施策を実施するためのアンケート調査です。

問26 今後の障害福祉サービスの提供

今後の障害福祉サービスの提供について、どう進めるべきと思いますか。考えに近いものを1つだけ選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
■ 1 障害福祉サービスの提供を今よりも拡大すべき	63.5%	61.7%
■ 2 障害福祉サービスの提供を今よりも縮小すべき	0.0%	0.0%
■ 3 障害福祉サービスの提供を今と同水準で維持すべき	15.4%	29.8%
■ 4 分からない（平成30年度調査：未回答）	21.2%	8.5%

問26で「1」又は「2」を選んだ方におたずねします。

今よりも拡大すべき、又は縮小すべきと思う障害福祉サービスを記入してください。

(具体的に思いつかなければ未記入でも結構です。)

- 放課後等デイサービスの利用日数を増やしてほしいです。
- 中学生、高校生が利用できる放課後等デイサービスを増やしてほしい。
- 放課後等デイサービスの数が多く、人員配置もゆとりがありすぎるように思う。
- 成人してからの受入先(特に施設やグループホームなど)の数が少なく、人員配置のゆとりが無さすぎるように思う。
- 移動支援、放課後デイ、知的にも訪問診療を 等

問27 障害福祉サービス等の提供に掛かる負担

障害福祉サービス等の提供に掛かる負担については、どのようにしたらよいと思いますか。考えに近いものを選んでください。

選択肢		令和5年度調査	参考(平成30年度調査)
	1 市民の税負担を今より増やす	7.7%	8.6%
	2 障がい者の費用負担を減らし、市民の税負担を今よりも増やす	11.5%	20.7%
	3 障がい者の費用負担を今より増やす	1.9%	8.6%
	4 市民の税負担を減らし、障がい者の費用負担を今よりも増やす	1.9%	10.3%
	5 市民の税負担や障がい者の費用負担(費用負担がない場合を含みます。)は今と同水準で維持する	59.6%	31.0%
	6 その他	17.3%	0.0%

➡ その他：分からない、市ではなく国が負担をするべき、市民の税負担を減らし、障がい者の費用負担も減らす 等

問28 障がい者福祉に対する意見・要望

国・県・平塚市の障がい者に対する施策について、具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 放課後等デイサービスの通える日数を増やしてほしい。
- 平塚市は早くから福祉サービスが発達した街だと思っています。ただ、手帳の取得などの手続面において、時間や手間が掛かりすぎると思っています。医師不足、従事者の不足など、人手不足が根本にあると思います。根本を探れば国に福祉に関わる賃金を上げて、人材を確保することが急務だと思います。
- 障がい者スペースの駐車場、国際シンボルマークのステッカー等、本当に必要な人が利用できるよう対策をしてほしい。
- グレーゾーンの子どもへの理解を促すポスターの掲示
- 発達検査・様々な手続、全てにおいて時間が掛かりすぎている。
- 年収によって補助してもらえる金額を分けないでほしい。障がい者に対しては、一律で補助してほしい。
- 年収で区切らないでほしい。 等

問29 今後の社会に必要なこと

障がいのある人もない人も、お互い理解し合いながらともにいきいきと生活していける社会を作っていくためには、どのようにしたらよいと思いますか。考えに近いものを3つまで選んでください。

選択肢	令和5年度調査	参考（平成30年度調査）
1 障がい者への理解を深める取組	17.4%	15.0%
2 あいさつや声掛けなど日ごろからのコミュニケーション	5.3%	11.5%
3 幼少期から障がい者と自然に関わることでできる環境	21.2%	20.4%
4 障がい者が共に参加できる活動やイベントなどの実施	5.3%	2.7%
5 地域の誰もが利用できる地域の生活相談や相互支援の場の設置	10.6%	5.3%
6 障がい者を支える地域での支援	4.5%	8.0%

■ 7 障がい者を支える福祉サービスの充実や支援者の育成	15.2%	16.8%
■ 8 障がい者が働くことのできる支援	16.7%	16.8%
■ 9 特別に必要とすることはない	0.0%	0.0%
■ 10 分からない	3.0%	1.8%
■ 11 その他（自由記述欄に記入してください。）	0.8%	1.8%

問30（自由記述欄）

どのような施策や事業を実施したらよいか具体的な御意見や御要望がありましたら、その内容を自由に記入してください。

なお、個人の特定ができるような具体的な内容は、記入しないでください。

- 猛暑や異常気象が深刻化する中、子どもが遊ぶ場が限られている。子どもが屋内で遊べる施設を拡充するべきだと思う。
- 健常者が障がいに対して勉強をして理解を重ねることはできても、そういった理解を障がいのある者同士で求めるのは無理があります。
- 保護者が働けるように朝早くから夜まで預かってくれるサービス
- 有資格者がファミサポに登録したくなるような制度
- オムツの助成
- 相談員の充実 等